

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
項目番号61 ○日常的な外出支援
項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
項目番号63 ○電話や手紙の支援
項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 (有)ヘルパーステーション小川ひまわりの家

(ユニット名)

記入者(管理者)
氏名 柏浦 ひろ子

評価完了日 平成20年 4月 23日

自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義をスタッフ全員で話し合い、何が大切か考え、独自の理念を作り上げた。ホームの見やすいところに明示している。		理念を介護者一人一人がどう捉え、日常の中で実践しているかどうか日々振り返る必要がある。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職場会議やカンファランス時に具体的に利用者様に当てはめ、理念を貫いているかどうか論議している。		自分たちが実践している事が理念に添ったものかどうか日々確認して行く必要がある。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族に訪問時や家族会等折に触れ伝えている。運営推進会議等でも事業所の役割、実践を伝えるようにしている。見学者や訪問者にも説明することがある。	○	地域の方々と接する機会を多く作ったり、運営理念や役割が地域に理解されるよう地域に対する運営理念の啓発、広報に取り組んで行く必要がある。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営者は地区の集会には可能な限り、参加するよう心がけている。隣の家に遊びに行ったりこちらに来てもらったり又散歩や買い物等に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり話をしたりしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りに参加したり、子供みこしを迎え入れたりしている。働くスタッフも地域の人が多く子供たちの訪問もたびたびある。昨年は地域の方々と共に認知症の学習会をホーム内で開催し学んでいる。	○	地域の方々と積極的に交流をもち、グループホームを理解してもらう。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の長寿会の依頼あり、介護保険の説明会をしました。また、講師を招いて、認知症の勉強会を地域の方々と一緒に行った。人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		地域の区長さんが、運営推進委員長なので、地域の連携を大切に考えていきたい。また、働くスタッフも地域の人が多いので、利用者の受け入れや、馴染みの関係が作りやすいので、地域の方々の役立つことは積極的に行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全スタッフに伝え、全員で取り組んだ。また、外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて努力している。	○	自己評価、外部評価がなぜ必要なのか そのはたす役割をスタッフが理解し、評価を受けて改善に向けて努力していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	評価結果、評価で明らかになった課題について報告し、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもつようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着の担当の長寿介護課の方とは常に連絡を取り、ご指導いただいている。認知症の学習会の情報も包括支援センターからいただき地域の方々と参加している。		制度上わからない事等を問い合わせできる唯一の地域の窓口ですので、これからもご指導していただく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	身寄りのない利用者が入居されたのを機会に包括支援センターのご指導を受けて、成年後見制度の導入を学んだ。色々な方の情報を得て他県から親戚の方が訪れて現在その手続き中。		勉強会を開きスタッフの理解を深めるようにしている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や会議の中で常に虐待について学び合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	日々の会話の中で利用者の言葉や表情から思いを感じ取ったり上手に表現する事が出来ない利用者からもしぐさ、表情等から探る努力をする。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	市町村の相談窓口や運営推進会議等事業所以外に意見、苦情を表せる機会や場がある事を繰り返し説明していく必要がある。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも馴染みの職員が対応することが重要と考えている。新しいスタッフが入る場合、利用者の説明対応の仕方等細かく行っている。	○	事業所側の都合でスタッフの異動が優先されていないかの確認が必要である。利用者スタッフとの馴染みの関係を大切に、異動を最小限に押さえるための努力、工夫が必要である。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修会には可能な限り参加している。研修報告書を提出してもらい伝達講習も行っている。また、定期的に内部研修も実施している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者、管理者は同業者の集まりを持っている。日常的にも互いに連絡し合い交流している。相互訪問も行い利用者様のご紹介を受けることもある。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常の会話の中からスタッフのストレスや悩みを把握するよう努めている。十分に話を聞いてスタッフ個々への対応を行っている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常にスタッフの疲労、ストレスの要因について気を配っている。行政や協議会主催の研修会にもできる限り参加させていますし、定期的に内部学習も行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴を知り、現在の生活状況に結びつけ対応している。本人の思い、喜び、不安などを知ること努め暮らしの中で分かち合い共に支えあえる関係づくりに努めている。	本人の思いを知るには、本人に寄り添い語りかけることが大切である。コミュニケーション術を向上させ利用者と上手に会話することができる介護者を目指していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的面会を促したり自宅で過ごす時間が持てるよう配慮している。また、利用者の方と一緒にすごしていただけるようグループホームでの行事に参加を呼びかけたりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見きわめながら外出、外泊と一緒に過ごすことをすすめたり、行事に参加を呼びかけより良い関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している理・美容院に行ったり、墓まいり続けている利用者があり、一人一人の生活習慣を尊重している。隣組の方、サークルの方、友人等継続的な交流ができるよう働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係について情報連携し、すべてのスタッフが共有できるようにしている。ホールで過ごす時間はスタッフがコーディネーター役として会話を成立させる。すわる位置は固定しているが利用者の状態で変化させ利用者同士の関係に気を配る。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事業所からの退居は死亡退居のみである。残されたご家族との関係を大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
できるように			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、語り合い把握に努めている。ご本人から無理な場合ご家族や関係者から情報を得るようにしている。声かけを大切に言葉や表情からその思いを感じ取ったり確認している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握することの意義を家族に説明し、利用時、家族、関係者から情報を得るようにしている。入居後は本人に語りかけをする事で、また家族、知人等の訪問時など少しずつ把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人のペースに合わせて過ごすことを基本にしている。一人一人の暮らし方や生活のリズムは把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成した計画をみんなに提示、意見をもらって修正している。ご家族にも意見をもらい介護計画を作成している。	個別カンファランスを定期的に持ち、介護計画の見直し、点検をしていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した際には、その都度スタッフ、家族と話し合い新たな介護計画を作成している。	3ヶ月に1度は介護計画の見直しを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに暮らしの様子、身体的状況を記録している。個別記録をもとに介護計画の見直し、評価を実施している。		身体的状況、暮らしの様子等職務に入る前に確認を必ず行いケアにあたる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員が定期的に訪問され、馴染みの関係になってきている。草野心平記念館や生家見学は利用者に好まれている。	○	ボランティア組織作りを充実させ、地域の方のグループホーム理解を深めていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や希望に応じてボランティアによる外出支援を行っている。また、訪問理・美容の利用をしてもらっている。		本人の意向や必要に応じてこれからもサービス利用をして行く。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	身寄りがない方が入居され、成年後見人制度について、包括支援センターに相談、現在その手続き中である。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者のかかりつけ医で受診できるようご家族と協力し、通院介助を行い複数の医療機関と関係を密にしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の診断はあるが薬は特に処方されていない方が問題行動が出現した時などは連携医師と相談しながら専門医を受診することがある。		情報の収集を行い、適切な専門医を見つけることが重要である。
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを防ぐため、担当の看護師や医師と話し合い出来るだけ早い時期に退院出来るよう家族も含めて話し合いをもち対応する。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期医療連携システムが出来ている。入居時からご家族とは話し合い、終末の迎え方を考えていただく。実際の終末を迎えた場合はできる限り、家族の意にそった方向で主治医と連携する。		現状を維持。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末や重症期を迎えた場合はご家族との連携を密にし主治医とも話し合っていたき、方針を統一する。また、スタッフにも方針をきちんと伝えて不安のないようにする。		ご家族とは常に話し合い終末期の確認をし、スタッフにもご家族の思いを伝えて全員のものとし、利用者が安心して過ごせるように心がける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	開設してから退去者は死亡によるものである。他のグループホームや病院からの入居はありましたが、本人やご家族に会い安心して入居できるよう準備してから迎え入れた。グループホームの担当者や看護師、医者との情報交換もした。	別の居所に移り住んだ方は、まだ、いらっしやいませ。別の居所へ移り住む際、これまでの暮らしが損なわれないよう支援内容、注意点など情報提供し連携して行かなければならない。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	本人を傷つけないような声かけ、対応に配慮している。	全スタッフが本人を傷つけないような言葉使い、対応の徹底、ミーティング時、会議等折りにふれスタッフの意識向上を図る。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	スタッフ側から決めたことを押しつせず、利用者に合わせて声かけし、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	一人一人の体調を配慮しながら、どう過ごしたいかその日の望みを知ることを大切にし、できるだけ個別性のある支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	今までの行きつけの店へ家族の協力を得て行くなど家族と連携して行っている。その他の方は1～2ヶ月に1度美容師に訪問していただいている。朝の着替えは本人の意向で決めているが自己決定がしにくい利用者にはスタッフが一緒に考え、本人の気持ちにそった支援をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	利用者一人一人のできる力を活かしてできるだけ一緒に食事準備を行って行きたい。スタッフの意識を変える必要もある。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		本人が傷つかないよう声かけ誘導介助が一人で無理な方でも2人介助にて排泄を介助している。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		利用者の個別にあった入浴の支援を継続していく。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
貸			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		本人の趣味を継続できるよう支援している。詩を作る人、習字を書く人、絵を描く人等それぞれの発表の場を設けている。役割も無理のない範囲で行ってもらっている。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	買い物ドライブを試み少額を所持してもらい本人が支払えるよう支援している。車での巡回販売車が定期的であり、希望者は買い物を楽しめる。		買い物ドライブを定期的に行っていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	体制上本人の希望通りには行かないが戸外に出かける工夫は定期的に行われている。集団の外出、個別の外出、その利用者に応じた対応をしている。	○	職員側の都合優先することなく、一人一人が外出を楽しめる支援に取り組んでいく。重度化している利用者に対しても本人に合わせた外出を支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）	本人が行きたいと思う遠くの外出については、予め計画を立て行なっている。墓まいり、温泉、テニス、外食等ご家族、お友達の協力を得ながら行なわれている。	○	ご家族や友人の協力を得ながら実現に向けて取り組んで行く。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	絵手紙交流の方へのお礼の手紙を一人一人の有する力に応じて返事を出すための支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	訪問時間など定めておらず都合のいい時間帯にいつでも訪ねていただけるよう配慮している。また、気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県主催の身体拘束廃止の研修に2名参加、伝達講習を行い身体拘束の内容とその弊害を認識し拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	○	個々の心身の状態を正確にアセスメントし、身体拘束を必要としない状態をつくり出す方向を追求していかなければならない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>スタッフ同士の声かけ連携で鍵をかけない努力をしている。外出しそうな様子を察知したらさりげなく声をかけたり一緒について行く等安全面に配慮し自由な暮らしを支えるようにしている。</p>	
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>日中はスタッフが利用者を見守りやすい場所においてさりげなく全員の状況を把握するようにしている。夜間も定時様子を確認している。</p>	
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>刃物の管理、薬の管理は注意している。利用者の状況の変化によって、ケースに応じた対応をしている。</p>	<p>利用者の状況に合わせて、何が危険か常に把握、検討していきたい。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>利用者個別に予測できる危険を検討し、全員で統一した対応を行っている。ヒヤリハットで事故報告を作成し、事故原因の予防対策について検討すると共に家族への説明、報告を行っている。</p>	
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>急変時、事故発生時のマニュアルを作成している。消防署の協力で応急手当と救命処置（心肺蘇生法、AEDの使用）について学んだ。</p>	<p>○ 救急手当や蘇生術の研修に参加し、すべての職員が対応できるようにして行きたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを作成し、消防署の協力で避難訓練、消火器の使い方等定期的に行っている。協力体制については運営推進会議で協力を呼びかけている。</p>	<p>○ 緊急時の避難袋の準備</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	高齢者に起こり得るリスクと対応に関して入居時に話し合っている。安全を優先するあまりベッド柵4本、車椅子のベルト着用を希望されるご家族がいるが、自由な暮らしの大切さと事業所の取り組みを説明し理解してもらうよう努めている。		利用者の自由な暮らしを支援すると共に常にリスクを考え介護にあたる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況をスタッフは把握しており、様子に変化が見られた時には、看護師、管理者に報告、医療受診につなげている。また、家族へ状況報告を適確に行っている。	○	表情、しぐさ等、本人の日常との違いをすばやく感じられる介護者をめざしていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による薬の管理とヘルパーへの指導(薬効、副作用、服薬方法)を行っている。服薬時はきちんと服用できているかの確認をしている。		利用者が服用している薬について理解し、服薬ミスのないよう支援していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い食材を採り入れている。また、毎日個別的な運動、水分摂取量チェックすることで自然な排便ができるよう取り組んでいる。医師、看護師との連携で薬の処方、浣腸、摘便等を施行している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの必要性をスタッフが理解し、毎食後声かけを行い、個々に合った支援を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスを常に考え、摂取量もチェック、水分量も毎日チェックし、職員が共有している。何種類かの飲み物を用意し、好みの物を選択してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	冬季に入る前にインフルエンザの予防接種を利用者、スタッフ全員が行っている。感染症に対するマニュアルを作成し、それにそって対応している。基本的には手洗いの励行を厳守している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限を守り新鮮な食材に心がけている。まな板、ふきん等毎日消毒し、冷蔵庫のおそうじも定期的に行っている。調理もキッチンマニュアルにそって実施する。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を生けたり玄関先にプランターを置いている。廊下は絵画を飾り心なごませる工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理をする音、ご飯の炊ける匂い、音楽、おはぎ、おせ料理等、五感や季節感を意識的に採りいれるようにしている。トイレやテーブル、玄関周囲は常に花に囲まれ、季節感あふれている。		利用者と一緒に考え、居心地のよい場となるよう努力していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角がテレビ室になっており間切りしてある。また、ベランダに椅子とテーブルを起き一人で過ごしたり、利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		ホール内の整理、整頓に心がけ、安全にまた、落ち着ける空間づくりの工夫をしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	居室の環境づくり、担当をきめ居心地よく過ごせる工夫をしている。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		廊下、居室内の危険物を常に認識できるスタッフが望まれる。
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	本人にとって何がわかりにくいのかを追求し対応していく。
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		ホール前のウッドデッキは林を見通し四季折々の楽しみがある。車椅子の方も外気浴や景色を楽しんでいる。玄関周囲も花々に囲まれるよう心がけている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然豊かな林に囲まれたグループホームです。天気の良い日はウッドデッキでお茶を楽しみます。自然に支えられ穏やかに過ごしています。日々の実践のなかでは、その方ができる限りの力を発揮できるよう支援しています。また、力を入れていることは終末をこのグループホームで迎えることです。住み慣れたこの家で静かに安心して死を迎えられるようスタッフ一同ご家族の方針にそった方向で努力しています。